

建設ディレクターの育成を支援します!

(高知県建設業人材育成事業費補助金)

建設ディレクター導入効果

技術者の残業削減

技術者の書類業務を移
管し、業務効率化へ

若手人材の採用

受講生の65%が20、30代
新規雇用のきっかけに

社内DX化の推進

書類業務だけでなく、
現場に必要なICT業務も

チームで働く組織

現場とオフィスを繋ぎ、
業務標準化へ



補助金について

- 補助対象: 県内に主たる営業所があり、**建設業許可を有している事業者**
- 補助金額: **上限82,500円/人**(※1事業者あたり最大5人まで)
- 補助内容: 建設事業者が常時雇用する若手人材(※)を建設ディレクターに育成する際に負担する講座(建設ディレクター協会主催)受講料の一部(1/4)を補助
※申請年度末時点で34歳以下の者
- 申請期限: **令和8年度中※年度内に試験(7月、10月、1月)に合格し、認定を受ける必要があります。**
※講座受講前までに交付決定を受け、年度末までに実績報告を提出すること。
※予算額上限に達した場合は、受付を締め切らせていただきます。

■U R L : <https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/kennsetugyoukasseika/>

- 当講座は、厚生労働省の「人材開発支援助成金」をご利用いただけます。
詳しくは、高知労働局助成金センター(TEL:088-878-5328)までお問い合わせください。
- 申込者の都合による解約をされた場合、キャンセル料が発生します。
詳しくは、(一社)建設ディレクター協会HPキャンセルポリシーをご覧ください。

受付窓口

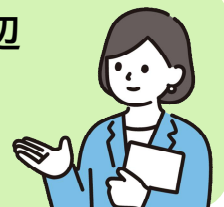
高知県土木部土木政策課 建設業振興担当 森光、田辺

書類送付先

170201@ken.pref.kochi.lg.jp

電話番号

088-823-9815



●建設ディレクター導入の背景

技術者は、残業が多く、休みも取りづらい状況でした。そこで、働き方改革の一環として、5、6年前から建設ディレクターと同様の業務を行う人材を配置していました。

基本的に、技術者は日中の業務に時間をとられ、現場が終わった17時以降から、書類作成を行っており、これが長時間労働の原因になっていました。2024年の法改正前に、会社として「残業0」を目標にして取組を進める中で、建設ディレクターの資格を取得してもらうようにしました。

●対策と効果

技術者の作業と同時に、書類作成の業務を行うことで、全員が残業なしで帰れるようになりました。

建設ディレクター導入により、各現場の資料や情報をまとめることができ、書類の質のばらつきがなくなり、工事の成績評価も良くなりました。また、例えば安全に関する通知や情報などが入ると、建設ディレクターがまとめ、各所に発信することで、現場ごとの管理のムラがなくなって、施工管理の平準化に繋がり、全体的な工事の質が向上しました。

現在では、女性職員にはもちろん、建設ディレクターの資格を取得してもらうようにしています。

●導入にあたって工夫した点

副所長だけで現場を見れる時などに、所長が建設ディレクターに、書類業務について教えています。工事開始から半年くらいは現場で、施工体制台帳作成や、施工体系図作成、CAD(図面修正)について学び、その後、写真はクラウドで管理、電話などで連絡を取りながら作業を行っています。

●今後の目標、建設ディレクターについて一言

現在、建設ディレクターの資格を取得している3名で、すべての現場の書類を作成できるようになることが理想です。

資格を取得し、技術者として配置される人たちは肩書きがありますが、その補助をする人たちは肩書きがありません。そこに建設ディレクターという肩書きがつくことで、施工計画書の現場組織表に「建設ディレクター」と記載するなど、ポジションが確立され、現場の方が、「これが建設ディレクターの仕事だ」と、受け入れられるようになっていくのかなと、期待しています。建設ディレクターの導入をぜひ勧めたいです。

●業務内容

現在は、オフィス作業がメインで、工事関係書類作成、契約関係書類の作成・とりまとめ、各官公庁との連絡などを行っています。

●建設ディレクター育成講座を受講して良かったこと

受講前から現在の業務に携わっていましたが、まったくわからないところからのスタートで、手探りで作業をしており、不安もありましたが、そういった部分の確認や、基礎知識の習得といった点では、非常に良い講座でした。また、講座終了後も、業務でテキスト等を活用する場面もあるので、受講して良かったと思っています。

●建設ディレクターについて一言

1つの現場で、仕事のしやすい環境を作るスタンスで働いています。最後、完成した現場を見て、所長と喜べる、建設ディレクターのやりがいにはそこにあると思います。新しく建設ディレクターになる方が同じような思いを抱いてくれると良いと思います。



高陽開発株式会社
代表取締役・取締役



建設ディレクターK.Mさん
(工業系学科卒、
建設業従事歴あり)

●建設ディレクター導入の背景

技術者の負担が大きく、残業も多かったことから、負担軽減のために、社長の提案で導入しました。

●効果

建設ディレクターとの業務分担により、技術者は、以前よりかなり働きやすくなっていると思います。また、建設ディレクター導入後、SNSなどの影響で、若手や女性の入社が増え、社内の雰囲気も明るくなりました。

●導入にあたっての工夫

導入前は、技術者と事務で業務をはっきり分担していましたが、導入にあたって、配置や業務の振り分け等で特に課題となったことはありません。

建設ディレクターの育成について、ICT系の業務については、以前から委託していたコンサルに教えてもらい、書類作成については、現場責任者に教えてもらうようにしています。

また、子供の送り迎えに支障が出ないように、現場が遠方の時は、9時から16時を作業時間とするなどの配慮をしています。

●建設ディレクターについて一言

ただ現場に出るだけでは、専門知識がない方が仕事を覚えていくのは、なかなか難しいため、若手の育成という点では建設ディレクター育成講座の受講はとても良いと思います。

技術者にとって、すごく助かる存在であると思うので、是非勧めたいですし、どんどんこういう人が増えると良いと思います。



豚座建設株式会社
取締役技術部長M.Mさん

●建設ディレクター取得のきっかけ

事務職として入職後、「無理だったら事務職に戻っても良い」と、会社から勧められ、取得することにしました。

●業務内容

認定までの3、4ヶ月は、現場の補助的な業務をしていました。現在は、工事が始まると、現場事務所で作業することがほとんどで、工事関係書類の作成の補佐や、ICT関係業務、測量補助などを行っています。

現場が遠い時には、作業時間を配慮してもらっているので、助かっています。

●建設ディレクター育成講座を受講してよかったこと

初心者でも、用語や実際に使用する書類など、幅広く基礎から学ぶことができ、業務の雰囲気をつかむことができることはメリットに感じました。

講座の中に、グループワークがあるので、同じような仲間と話ができることも良い点である思います。

●建設ディレクターについて一言

建設ディレクターの資格があることで、女性も建設業に入りやすくなると思います。



建設ディレクターY.Iさん
(工業系以外学科卒、建設業従事歴なし)

●建設ディレクター導入の背景

元々、現場代理人が行っていた業務であったが、人手が足りない場面もあり、負担軽減のために導入しました。

●対策と効果

1つの現場に書類業務担当として技術者を1人配置すると、どうしても空いた時間が生じてしまうことから、書類作成専門としての建設ディレクターを導入しました。

管工事部、電気工事部にそれぞれ2名見積もりの担当者がおり、各部1名ずつが建設ディレクターを取得しました。

業務負担は減少し、残業も確実に減っています。

●建設ディレクターについて一言

建設ディレクターのような業務をしている人はたくさんいると思います。資格として確立しているため、そういった人の自信に繋がると思います。

株式会社マルヒラ
管工事部H.Kさん



●建設ディレクター取得のきっかけ

建設業は、建物が作られ、成果が後世に残る仕事である点が非常に魅力的で、現在の会社に、積算事務として入社しました。会社から、建設ディレクター取得を勧められて、育成講座を受講することにしました。

●業務内容

はじめは電話対応や備品管理など、できることから行っていました。周りのサポートもあり、業務と講座受講の両立は難しくなかったです。

現在も、オフィス作業がメインで、工事関係書類作成やその他事務的な書類の作成を行っています。

●建設ディレクター導入のメリット

建設ディレクターという肩書きをもらえたことで、自信に繋がり、自ら進んで行動できるようになりました。

●建設ディレクター育成講座を受講して良かったこと

会社にとっても、一から教えることは大変だと思うので、建設業に入る入り口としては、良いと思います。

建設ディレクターN.Nさん
(工業系以外学科卒、建設業従事歴なし)

